

アカデミアとの共創で、社会課題を解決する、より高度な次世代 AI 技術の開発拠点  
**FUJIFILM Creative AI Center 「Brain(s)」開設**  
社内外の AI 人材を育成する「FUJIFILM AI アカデミー」も開講

2018 年 10 月 1 日

富士フイルムホールディングス株式会社(社長:助野 健児、以下富士フイルム HD)は、アカデミアとの共創により次世代 AI 技術を開発する拠点 FUJIFILM Creative AI Center「Brain(s)」(ブレインズ)を東京・丸の内内に本日開設いたします。

これまで、富士フイルム HD は、主に画像診断や一般写真の分野で、画像から必要な情報を読み取る AI を開発してきました。今後は、事業活動から得られる様々なデータ、例えば医療の検査結果などの生体情報を画像情報と組み合わせて「統合的に理解や判断を行い、現場を支援する AI 技術」へと発展させていきます。さらに、これら独自の AI 技術を、診断レポートや医学書などの言語化された知識やヒトの経験知とも結び付けることで、さまざまな社会の課題を解決する次世代 AI 技術をアカデミアと協働で開発していきます。富士フイルム HD は、「Brain(s)」を、富士フイルムグループの AI 技術者の研究開発拠点として活用するだけでなく、アカデミアと緊密な研究活動を行う場とすることで、それぞれの「知=脳」を結集し、次世代 AI の技術開発を協働で推進します。

# Brain(s)

FUJIFILM Creative AI Center

「Brain(s)」は、“脳”に象徴される人々の叡知(brains)を、人工知能(-ai-)を軸として融合する場を示しています。

富士フイルム HD は、医療機器などを提供するメディカルシステム事業を始め、医薬品、再生医療、バイオ CDMO ※<sup>1</sup> 事業などで構成されるヘルスケア事業や、ディスプレイ材料・ファインケミカルなどの高機能材料事業、ドキュメント事業など様々な事業を手掛けています。これらの事業領域で、ユーザーニーズや課題を解決するために、専門的な判断を必要とする医療画像や社会インフラ点検画像などのデータを対象に、AI 技術の開発を進めてきました。この AI 技術をさらに進化させ、より高度な社会課題を解決する革新的な製品・サービスをより早く提供すべく、最先端 AI 技術と融合させるため、アカデミアとの共創を実現する新たな研究開発拠点「Brain(s)」の開設に至りました。

FUJIFILM Creative AI Center「Brain(s)」では、以下に取り組みます。

## 1. アカデミアとの共同研究による次世代 AI 技術の開発

これまで、富士フイルム HD は、理化学研究所革新知能統合研究センター(理研 AIP センター)内への「理研 AIP-富士フイルム連携センター」の開設や、東京大学 大学院情報理工学研究所内への「社会連携講座」の開設など、アカデミアと連携し、AI 技術を開発してきました。

今後は、Brain(s)を活用し、富士フイルム HD が事業活動を通して得た医療現場や社会インフラ点検現場などの実課題に加え、検査画像や診断レポートなども活用し、アカデミアの自然言語処理やマルチモーダル※<sup>2</sup> AI などの基礎技術を活用することで、社会課題を解決するための、より高度な次世代 AI 技術を開発していきます。さらに、ディープラーニング用として世界最速のスーパーコンピュータを今月中に導入することにより、国内トップレベルの研究環境を構築し、AI 技術の開発をさらに加速させます。

## 2. AI/ICT 人材の育成

新たな取り組みとして「FUJIFILM AI アカデミー」を開講します。社内外の人材が、本アカデミーで著名な研究者との交流を通じて最先端の AI 技術に触れ、学ぶことができます。次世代の AI/ICT を活用する未来の社会を構想し、日本の未来の産業をリードする AI/ICT 人材を富士フイルム HD が育成します。

## 3. 当社技術・製品と社外の ICT 技術を掛け合わせる「ICT オープンイノベーション」の実施

丸の内という地の利を活かし、AI 研究を進めるスタートアップ企業などとのコラボレーションを実施します。画像診断支援など医療の次なる領域を切り開く AI 技術「REiLI(レイリ)」や、AI を活用して開発したフォトブック「イヤールバム」、AI を活用した画像解析によって、ひび割れ点検業務を大幅に効率化する社会インフラ画像診断サービス「ひびみつけ」など、当社 ICT 関連製品・サービス、技術の展示およびコラボレーションエリアを「Brain(s)」内に設け、実際に見て触れていただきながら、さまざまな企業とビジネスアイデアを創出していきます。

富士フイルムグループは、幅広い分野において活用できる AI 技術の開発をより強力で推進し、社会課題を解決する革新的な製品・ソリューションを提供していきます。

## 記

### 1. FUJIFILM Creative AI Center「Brain(s)」の概要

- <名称> 「Brain(s)」(ブレインズ)
- <所在地> 東京都千代田区丸の内1-6-5 丸の内北口ビルディング WeWork 内
- <面積> 約 400 m<sup>2</sup>

### 2. FUJIFILM AI アカデミーの概要

- ① 大学・大学院の学生を対象に、インターンシップやハッカソン<sup>※3</sup>などのイベントを開催し、優秀な AI/ICT 学生を育成していきます。
- ② 理研 AIP や東京大学、早稲田大学をはじめとしたアカデミアのトップ研究者を講師に招聘し、学生や企業の情報系技術者を対象としたセミナーや講義を無償で開催します。参加者は、最先端の技術に触れ、学ぶことができます。
- ③ 富士フイルムグループ社員を対象に、最先端の AI/ICT 技術の学びの場を提供し、社内の AI/ICT 人材の育成を加速します。  
また、本分野で顕著な成果をあげた社員に対し、新設する「AI/ICT 技術認定制度」に基づく報奨を付与する事で、AI/ICT 人材のさらなる活躍を促進します。

### 3. 専用 WEB サイト(<https://brains.fujifilm.com>)での情報発信

本日より、専用 WEB サイトを開設し、Brain(s)における取り組みや FUJIFILM AI アカデミーの講義情報などを発信します。

※1: Contract Development & Manufacturing Organization の略で、薬剤の開発および製造受託を行う組織を指す。薬剤開発初期の細胞株開発からプロセス開発、安定性試験、治験薬の開発・製造、市販薬の製造までの幅広いサービスを、製薬企業などに対して提供する組織。

※2: マルチモーダルとは、多様式の意。画像だけでなく、音、動き、言語など、複数の情報を組み合わせて学習させることで、より高精度な AI 技術の開発を目指します。

※3: ハック(Hack)とマラソン(Marathon)を合わせた造語。ソフトウェア開発者が一定期間集中的にプログラムの開発やサービスの考案などの共同作業を行い、その技能やアイデアを競うイベント

### <本件に関するお問い合わせ先>

富士フイルムホールディングス株式会社 経営企画部 コーポレートコミュニケーション室 TEL:03-6271-2000  
「Brain(s)」WEB サイト: <https://brains.fujifilm.com>